

## 令和元年度 第5回研修会の記録

開催日 令和2年2月2日

<b>研修テーマ</b>	「身近な樹木の面白話」	<b>参加者</b>	埼玉支部 35名 他県支部 6名 一般 1名 <span style="float: right;">計 42名</span>
<b>講師</b>	岩谷 美苗 樹木医（埼玉県支部）	<b>場所</b>	Withyou さいたま 視聴覚セミナー室
<b>資料</b>	P-point 資料	<b>記録</b>	江川 聡
<b>目的</b>	身近な樹木のあまり知られていない性質、利用方法を新たな視点で紹介してもらい、樹木保護の必要性、樹木に関心を持ってもらうなどのコミュニケーションの取り方、伝え方を学ぶ。		

### 研修内容

「木について伝えることは樹木医にとって重要な仕事」ということで、男性、女性、大人、子供と  
いったそれぞれの相手に、どう関心を持ってもらうかという講師の長年の経験から得たツボを紹介。

一般の人はこちらが思ってる以上に樹木に興味が無く、興味がないまま何かを伝えようとしても永遠に伝わらないどころか、逆に嫌いにさせてしまうということで、まずは樹木に興味を持ってもらう  
ところからはじめることが肝要。

具体例として、身近な樹木のあまり知られていない性質「アオダモの蛍光ペン」「タラヨウの葉裏に  
文字を書く」や、昔ながらの利用法「ムクロジの洗剤」、五感に訴える嗅覚の「カツラの芳香剤」触覚  
「シロダモのフワフワ」、今までにない視点でのアプローチで「おもしろ樹木」「冬芽のイケメン」な  
どが紹介された。

樹木に興味のない人に興味を持ってもらう“会話のきっかけ”につながる「面白話」の紹介・解説。

休憩時間には、「トウネズコーヒー」「マテバシイ味噌」の試飲・試食が行われ、味覚も体験。

講師の人間観察による、年齢・性別に対応したツボを押さえたコミュニケーションの取り方、伝え  
方についての講義であった。



講義風景



講義風景